

基礎学力試験 (国語)

(問題)

2023年度

〈R05170062〉

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～4ページに記載されている。問題冊子や解答用紙の印刷が不鮮明であったり、ページが抜けていたり、汚れていたりしている場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が始まってから、解答用紙の所定欄（2か所）に正確に正しいに記入すること。
5. 読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数字見本

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示がでたら、ただちに筆記具を置くこと。終了の指示に従わない場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 正月に <u>雑煮</u> を食べた | 2 暑さ寒さも <u>彼岸</u> まで |
| 3 <u>横柄</u> な態度をとる | 4 厳めしい顔つき |
| 5 緩やかな坂道 | |

(二) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 山をイロドる紅葉 | 2 鳥がスを作る |
| 3 リツパな人物 | 4 シュビよく成功を収める |
| 5 絵の具をヌる | 6 病人をカイホウする |
| 7 迫真のエンギ | 8 海外ヘトコウする |
| 9 ノウコウ民族の歴史 | 10 無事をイノる |
| 11 月がカガやく夜 | 12 新記録をジュリツする |
| 13 料理のソザイにこだわる | 14 庭にシャヨウが差し込む |
| 15 商品をハンガクで売る | |

(三) 次の文章は、太宰治『人間失格』について述べたものである。これを読み、あとの問いに答えなさい。

第一章で見た通り、近代社会では人はまるで幼さを強制されるような状況に置かれてきた。私たちは未成熟者としての振る舞いを余儀なくされている。幼さはもはや生きる態度として選択されざるをえない。未成熟であることは一時的な欠点や症状として矯正されたり取り去られたりすることはなく、大人にとつても、死ぬまで付き合ねばならない人格の一部となっている。

近代以前も、とくに王や祭司といった権力者の前では、人は導かれるべき弱い存在として「幼く」あることを強いられてきただろう。聖書の中でもしばしば信徒は、「神の子羊」にたとえられている。しかし、近代になると「幼さ」という境地はより内面化され、文化にしっかりと組み込まれて、一種の人間の姿勢として普遍化される。幼さは人間社会の中に、抜きがたく構造化されてしまった。

幼さをとりまく文化の仕組みがもつともわかりやすい形であらわれているのが、印刷術の発達以来、近代社会のきわめて重要な一部となった「語り」という行為である。言語が生まれて以来、人はたえずお互いに言葉を交わしてきたが、ヨーロッパではとりわけ一六世紀、一七世紀と時代が下るにつれ、印刷されたパンフレットや書物を通して不特定多数の読者に対して「語り」を行うという状況が増えてくる。

近代以前も、神話や法など共同体にとって重要な物語は、何らかの形で固形物に刻まれたり、人々によって記憶され口伝えで残されたりすることで表現を与えられ保存されてきたが、そもそも

1 近代以前にはそうした語りは、個人がおいそれと手を出せるようなものではなかった。語りを支配したのはあくまで共同体であり、その統制のもとに形を与えられてはじめて広く流通し、また後代に受け継がれた。語りを成立させるための石や紙、また祭儀や詩型といった硬軟それぞれのメディアが、個人の責任で操作できるようなものではなかったからである。

A 近代になり、紙などのメディアが徐々に個人の自由になるようになると、言葉²を発する権利が「民主化」される。これまで人は語りを聞く立場にあった。公の語りとは権威によって行われるものであり、個人はそれを言い直したり、記憶したりするのがせいぜいだった。詩人や政治家など、公の言葉を担う立場にあった人々も、公の制約の中で活動していたのであり、個人の主体性がそこに介在する余地は非常に小さかった。しかし、メディアの開放とともに人は語る主体となることを許されるようになった。近代人とは、自ら主体的に言葉を操る人なのである。語りとは聞くものではなく、自ら行うもの。そう考えると、まさに言葉の歴史は政治の歴史とパラレルだと思えるかもしれない。権力は王や為政者から人民の手に降りてきたのだ、と。しかし、問題はその先である。

自ら言葉を支配し表現を行うというと、自由で解放された、のびのびした状況が想起される。権力の I を得る必要もないし、公の制度に組みこまれる必要もない。しかし、この自由にはもう一つの面がある。言葉が共同体から未承認で権威の裏付けがなければ、信用や信憑性^{しんぴやう}や真実らしさを欠いた、どこかいかかわしいものと見られる可能性があるのだ。語る人にとってこれは致命的な欠陥となりうる。

しかし、私たちはそのようないかがわしい言葉と上手に付き合う術^{うす}を洗練させてきた。語りの疑わしさや偽物性を感知しつつ、それを受け入れる余地を近代の文化は作り出してきたのである。フイクションという概念がまさにそれである。嘘^{うそ}でありながら、同時に聞くに値するという枠は、私たちがいがわしさと付き合うための方策を提供した。そうした言葉は公的には「未承認」の状態にあるという点で、社会における「幼さ」の位置ときわめて類似している。いずれ「承認」され権威によって裏付けられる可能性はあるが、未だその状態には達しておらず、過渡的で信用できないもの。弱く、はかなく、権力からも隔たり、しかし、新鮮で、約束事や因習や形式からは自由。まだまだ手垢^{てあか}もついておらず、既視感がない。

このような語りが近代に入ると徐々に市民権を得る。語りを行う者にも、一定の社会的評価が与えられる。文筆が商業活動として可能になったのは一八世紀から一九世紀にかけてだが、これには II の発達により書物の低コスト大量生産が可能になったという事情がある。 B

興味深いのはこのような文筆の職業化が、いかがわしさの語りの隆盛とほぼ同時に起きたことである。というのも、とりわけ小説家の創作物に期待されたのは——それが作家本人の体験に基づくかどうかはともかく——どこかの誰かにふりかかった「個人的な体験」の披瀝^{ひれき}だったからである。共同体の約束事に従って様式化された「公的に承認済み」のものよりも、未承認で、薄暗い、信用するにも躊躇^{ちゅうちう}するようなものを人は読もうとした。それは「まさか」というような、予想を外れるような意外性に満ち、いかにも個人的であるような等身大のスケール感も備えていたからである。

人が自ら主体的に語り表現するようになった文化では——あるいは語ることこそが主体性を保証するようになった文化では——言葉はつねにこうした不安定さにみまわれざるをえない。個人が語る言葉とは、弱く、はかなく、どこに向かうともしれない、信用ならないし、嘘か本当かもわから

ないものなのである。そうしたいかがわしさの根本にあるのは、弱さや無根拠さなどの要因を広く包含した、近代人特有の弱さであり、幼さなのである。近代の文化は、こうした人間の「負」の要素を内に取りこみ構造化してきたのだと言える。近代文化とはこれまでにまして、人間というのが完璧な状態に達していないという、C人間が「人間」たりえていないということに自覚的な文化なのである。そういう意味では、そうした未達成を示唆する「幼さ」の意識は、文化に必然的に内在するとも考えられる。

(阿部公彦『幼さという戦略』による)

問1 空欄

A

↓

C

に入るべき語を次の中から選んで記号で答えなさい。

ア そこで イ つまり ウ ところが

問2 空欄

I

に入るべき漢字二字の語句、空欄

II

に入るべき漢字三字の語句

を本文中から抜き出して答えなさい。

問3

傍線部1「近代以前にはそうした語りは、個人がおいそれと手を出せるようなものではなかった」とあるが、「近代以前」の「そうした語り」とはどのようなものか。それを端的に述べている三十字以内の箇所を本文中から探し、その始めと終わりの三字を抜き出して答えなさい。

問4

傍線部2「言葉を発する権利が「民主化」される」とあるが、「民主化」とはどういうことか。本文中の語句を用いて三十字以内で答えなさい。

問5

傍線部3「嘘^{うそ}でありながら、同時に聞くに値するという粹^{すい}」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) この「粹」の例として挙げられている七字の語句を本文中から抜き出して答えなさい。
- (2) 「聞くに値する」理由を述べている一文を本文中から探し、その始めの五字を抜き出して答えなさい。

〔以下 余白〕

基礎学力試験（国語）
解答用紙

<2023 R05170062>

受験番号	万	千	百	十	○
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

<2023 R05170062>

受験 番号	万	千	百	十	一
氏 名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。



(三)

A
B
C

I

(2字)

(始め)

(3字)

}

(終わり)

(3字)

[illegible]

(1)

(7字)

(2)
(始め)

(5字)

$$(=)$$

11	6	1
く		る
12	7	2
13	8	3
14	9	4
15	10	5
	る	る

()

1
2
3
4
めしい
5
やか

$$\begin{pmatrix} \text{---} \\ \text{---} \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} \text{---} \\ \text{---} \end{pmatrix}$$
[illegible]

(三)

[illegible]

	$\left(\frac{1}{2} \right)$
	$\cdot$
	$\left(\frac{1}{2} \right)$

+	-

(三)

+	-